

全国盲学校フロアバレーボール大会運営規程

令和8年1月

I 大会規定

1 主催

全国盲学校体育連盟

2 共催

全国盲学校長会 全国盲学校PTA連合会 (福) 全国心身障害児福祉財団

3 後援

文部科学省 各地区教育委員会 毎日新聞社点字毎日 毎日新聞社会事業団
日本フロアバレーボール連盟

※その他は主管の実情にあわせて依頼する。

4 協力

主管の実情にあわせて依頼する。

5 主管

各地区盲学校体育連盟

※ 北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国・四国、九州の8地区の中の1地区が担当する。

6 主管校

主管を担当する地区の校長会等で決定する。

7 日程

8月下旬の3日間で実施し、予備日は設けない。

第1日：受付、公式練習、代表者会議、(開会式)

第2日：(開会式)、試合(トーナメント戦、交流戦)

第3日：試合(準決勝、決勝・3位決定戦、交流戦)、閉会式

8 競技場

(1) 「独立したコート」と「練習コート」を準備することが望ましいが、開催地域の実情を尊重する。

(2) 原則、1フロア1コートで2コートできる会場で行う。ただし、地域の実情・会場等の都合で1フロア2コートもあり得るが、極力避ける。

(3) フリーゾーンは3m以上を確保する。

(4) エアコン、観客席がある会場が望ましい。

9 参加資格

監督・コーチ：教職員もしくは、校長が委任し各都道府県が認めた外部指導者

選手：全国盲学校体育連盟加盟校に在籍しており、視覚に障害のある生徒

10 参加チーム

- (1) 北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国・四国、九州の各地区代表8チームおよび前回優勝校地区の2位、主管校、計10チームとする。
- (2) 各地区および主管校から出場できない場合には、全国盲学校体育連盟事務局の調整により参加チームを決定する。
- (3) 原則として主管校は特別枠として参加する。主管校が地区代表または何らかの事情で参加できない場合は、主管地区から出場するチームを選出する。主管地区からの参加がない場合は、全国盲学校体育連盟事務局の調整により参加チームを決定する。
- (4) 合同チームについて（各地区予選を実施する上での配慮点含む）
 - ・少数人数チームの参加資格を保障することを目的とし、大会前の合同練習が行える地理的条件や、ポジションについて補える関係などを加味して、戦力増強に傾向しない節度のあるチーム編成とする。

○各地区で、合同チームを編成する際の優先順位

 - ①単独チーム優先とする。（5人以上）
 - ②5人未満のチームで合同チームを組むことを優先する。
 - ③5人以上のチームが合同チームを組む場合。
 - あ 地区で協議の上、その旨を事務局に伝える。
 - ※その地区の「予選参加校の各学校部員数」「合同チームを組む理由」等。
 - い 事務局は、前年度の全国大会専門委員を招集し、会長の同席のもと協議し判断する。そして、当該地区に結果を伝える。認められた場合は第1回研究協議会（評議員会）にて周知する。

○配慮点

 - ・その時点の各学校の選手の人数に基づいて編成する。
 - ・全国大会へは、地区予選から同一の合同チームで参加する。
 - ・全国大会へ出場した場合は、参加選手は12名以内とする。
- (5) 3チーム以上で合同チームを編成する場合は、6人未満のチーム同士であれば、12人以上となっても認める。また当該地区内に6人未満のチームが1チームだけの場合と、合同しても6人に満たない場合は、特例として6人以上のチームに加わることができる。ただし、いずれの場合も最終エントリー（ベンチ入り）は12名以内とする。
- (6) 選手は、構成メンバー表を提出の際に「前衛」・「後衛」・「両方」登録を行う。

11 登録費

1チーム：30,000円

12 競技方法

競技規定に基づいて行う

13 チームの構成

チームは、最大限12人の競技者、監督1人、コーチ3人以内とする。

※生徒がマネージャー登録を行うことができ、ベンチに入ることができる。ただし、マネージャーをベンチに入れる場合は12名のベンチメンバーに含まれる。

（選手、マネージャー合わせて最大12名以内とし、マネージャーの人数は申し合わせ事項によるものとする）

14 組み合わせ

主管校が指定する抽選日に、抽選で決定する。

15 表彰

(1) 第1位から第3位までのチームを表彰する。

(2) 個人賞を設ける。

個人賞は以下の通りとし、選出は当該チームの監督推薦による。

最優秀選手賞：優勝チーム

優秀選手賞：準優勝チーム、第3位チーム

敢闘賞：第4位チーム

16 宿泊

原則として主管校が手配している宿泊施設に宿泊する。

ただし、主管校による宿泊の手配がない場合は、各チームで確保する。

17 申し込み

プログラム作成の日程と各地区予選の日程を考慮して、×切期日を設定する。

申し込み時に構成メンバー表も提出する。

II 競技規定

競技レギュレーション(トーナメント・交流戦)およびスケジュールについては上記Ⅰの大会規定を基本とし、大会開催地域の実情等により交流戦の試合数や時間等の変更を行うことがある。その場合は専門委員会等で大会スケジュールを検討する。

1 競技規則

運用する規則は、日本フロアバレーボール連盟編『フロアバレーボール競技規則 2023年1月改定』、および「大会申し合わせ事項」を適用する。

2 チーム登録

最終登録は、大会第1日目の代表者会議において、最終決定とし、それ以降の変更は認めない。

3 競技方法

(1) トーナメント戦で実施する。

(2) 2セット先取の3セットマッチとする。

(3) 得点はラリーポイント制とし、第1・第2セットは15点先取、第3セットは11点先取とする。

(4) 第1・第2セットでデュース(14対14)の場合は、2点差がつくか17点を先取したチームの勝ちとする。第3セットはデュースなしで11点を先取したチームの勝ちとする。

(5) セット間は3分とする。

(6) タイムアウトは各セット2回まで(1回30秒間)とする。テクニカルタイムアウトは採用しない。

- (7) 試合時間の設定があり、時間内に勝敗がつかなかった場合（ラリー中終了時間になった場合、ラリーが終了するまでは試合時間とする。また、ラリーの開始は主審のサービス時の吹笛によるものとする。）の対処
- ① 第1または第2セットの途中、または第2セット終了時の残り時間が3分以内で時間切れの場合→第1・第2セットの合計得点で勝敗を決定する。
 - ② 第3セットの途中で時間切れの場合→第3セットの得点で勝敗を決定する。
 - ③ 上記①②のいずれの場合も同点の場合は、1点先取の延長戦を行う。その際、コート内の選手やサービス権・ローテーション等は最終プレーのものを引き継ぎ、タイムアウト・選手交代などは認められない。

4 交流戦について

トーナメント戦に敗れたチームによる交流戦を行う。

参加校同士の交流を目的とする。（順位を付けることを目的としない）

トーナメント敗退チームで2試合程度は行えるようにする。

交流戦のレギュレーションに関しては、4年を目途に再確認し、全盲体連評議委員会で最終決定する。

次回検討時期は、2028年度で2029年度大会から運用。

5 記録（オフィシャル）について

記録に関しては、日本フロアバレーボール連盟の公式用紙（フロアバレーボール競技規則 P99 および HP 参照）を使用することを推奨する。

6 試合成立条件

試合成立人数は5名とする。ただし、該当する選手にサービスが回ってきた場合は、サービスミスが審判が宣告し、相手チームに1点が与えられ、サービス権も移動する。

7 競技服装

原則として、競技規則に則る。

8 組み合わせ抽選

- (1) 組み合わせ抽選は、主管校が抽選日を決め、その日に行う。
- (2) 予備抽選を設ける。予備抽選のくじを引く順序は、主管校に一任とする。
- (3) 同一地区から2チーム出場する場合は、初戦で対戦しない等配慮する。
- (4) 主管校チームをAコート第1試合に入れる。

9 試合実施の決定

事情により途中で競技を中止したり、日程変更等をしたりは、大会役員で協議し、各チーム代表者に連絡する。